

わくわく園庭日記

蒲幼稚園 No.12 R 2, 1, 15

3学期の始まりと共に、子どもたちの元気な声が園庭に響き渡りました。寒さを吹き飛ばすように活発に遊ぶ姿に、“これぞ外遊びの楽しさを熟知している子どもたちの姿だ！”と嬉しく思いました。未だ心配なニュースが飛び交っていますが、こうして再びみんなで遊べる幸せを噛みしめています。

園庭は、冬休みの間にリニューアル！大きなチャレンジタワーと小さなチャレンジタワーが登場し、ブランコの素材が変わりました。これらの制作に至るまでの話し合いの内容と作業の様子については、ホームページをご覧ください。いずれも、子どもたちの中に存在する自ら育とうとする力を十分に発揮できるように考えたものです。生き生きと遊ぶ子どもたちの様子をご覧ください。



氷が張る程冷え込んだ日も、躊躇なく裸足になって遊び始めました。

チャレンジタワー その1

大きなタワーは、高さ180cmあります。思い切って高く作ったのには理由があり、簡単には登れない仕組みになっています。子どもの背の高さから考えると、登るのは至難の業。でも、果敢に挑戦していく姿に感心し、子どもたちの中には、まだ私たちが知らない力が眠っていると感じました。



踏み台を使ったり、他者の力を借りたりしないで、登ったり降りたりすること。

チャレンジタワーでの約束は、これだけです。そのため、子どもたちは頂上に登る方法を考えます。全身を使って挑みます。登れない悔しさや登れた達成感も味わうでしょう。そして、真剣に取り組むことへの充実感をも味わえるのではないかなと思っています。

走ってきて…

ジャンプ

頂上まで

あと少し!



天板に手が届き、もう間もなく登れる子が出てくるでしょう。すると登った先での楽しみを見つけたら、「自分も登ってみたい」という新たな子が挑戦したり、遊びが絶え間なく続いていくだろうと思っています。

チャレンジタワー その2



どうしても登りたい花組さんに対して、雪組さんが声をかけています。自分がどうやって登ったのかを振り返り、一生懸命説明したり、実際にやって見せたりして伝えるのですが…。こうして取り組んでいくうちに、遊びに関わる全ての子の体力が鍛えられるばかりでなく、豊かな人間関係も築かれていくのだろうと感じました。



小さなタワーの高さは、90cm。星組や花組の子どもたちも、頑張って登る経験が積める高さに設定してあります。また大きなタワーに挑戦する前段階として取り組める高さでもあります。初日は、月組の子どもたちもどうやって登ったらいいのか戸惑う姿が見られましたが、これに乗れたことで自信をつけ、大きなタワーに挑戦していきました。

チャレンジタワーが舞台となって、お遊戯を披露。なんだか踊りたい気分になったのでしょうか。チャレンジタワーの活用の仕方は、子どもたちの発想によって、いろいろ変わります。

その足元では、必死に登ろうと頑張っている子の姿も見られました。

ブランコ

既存のブランコの鎖と座面の素材を変え、高さも変えました。地面に足がつかないブランコを漕ぐのは大変！またブランコの動きに制限がなくなったので、新たな楽しみ方を考え出す子どもいました。

高く漕いで、

清々しい気持ちに



友だちと思いついた

楽しい遊び方

